

文化資源学会 フォーラム「鎌倉近代美術館の閉館をめぐって」

日時:2015年11月21日(土曜)13:30～17:00

場所:東京大学法文2号館2大教室

開催趣旨:

神奈川県立近代美術館は1951年11月に日本で最初の公立の近代美術館として鎌倉の鶴岡八幡宮境内に開館しました。戦後間もない、占領下の日本において新しい文化の発信地として誕生した近代美術館は多くの人々の共感と支持を得てきました。ル・コルビュジエの弟子坂倉準三によるその建物も日本を代表する近代建築の名作として高く評価されています。

しかし、鎌倉近代美術館(カマキン)の通称で親しまれてきたこの美術館が、鶴岡八幡宮との借地契約期間終了に伴い、2016年1月末をもって展覧会を終了し、その後3月末までに鎌倉における美術館活動に完全に終止符を打つことになりました。現在、近代美術館では、その活動を振り返る最後の展覧会「鎌倉からはじまった。1951-2016」が3部に分けて開催されています。また文化資源学会も、7月には「神奈川県立近代美術館と戦後日本」と題した特別講演会を開きました。けれども、その一方で、本年9月、神奈川県は、鎌倉における美術館活動の終了、鎌倉本館の建物保存とその八幡宮への移譲、新館および学芸棟の解体撤去という方針を議会で発表しています。

このような状況のなかで、文化資源学会では戦後70年の節目にあたる2015年度の重要な活動として、戦後日本の社会の中でこの鎌倉近代美術館が果たしてきた先駆的な役割を振り返り、未来に残すべき遺産としてのその価値と保存のあり方を、さまざまな視点から考え直してみる議論の場としてフォーラムを企画します。

プログラム

13:30 あいさつ・趣旨説明

13:30～14:15 「美術館は更新可能なのか—カマキンの場合」 水沢勉、神奈川県立近代美術館館長

14:15～15:00 「神社景観とモダニズム建築—姫石と鎌倉近代美術館は排除されるべき異物か？」 木下直之、東京大学教授

15:00～15:45 「無限成長美術館へのまなざし—ムンダネウムから鎌倉、上野」 山名善之、東京理科大学教授、docomomo international理事

15:45～16:00 ティーブレイク

16:00～17:00 討論(司会 太田泰人)